

地区労ニュース

第87回 山宣墓前祭

山本宣治氏は治安維持法の改悪をただ一人反対し、本会での反対演説を控えて東京の寄宿舎にいたところ演説を阻止する右翼の暗殺者によって刺殺されました。

今年の第87回山宣墓前祭は、春の暖かさの中鶯の声も聞こえる中で開催されました。

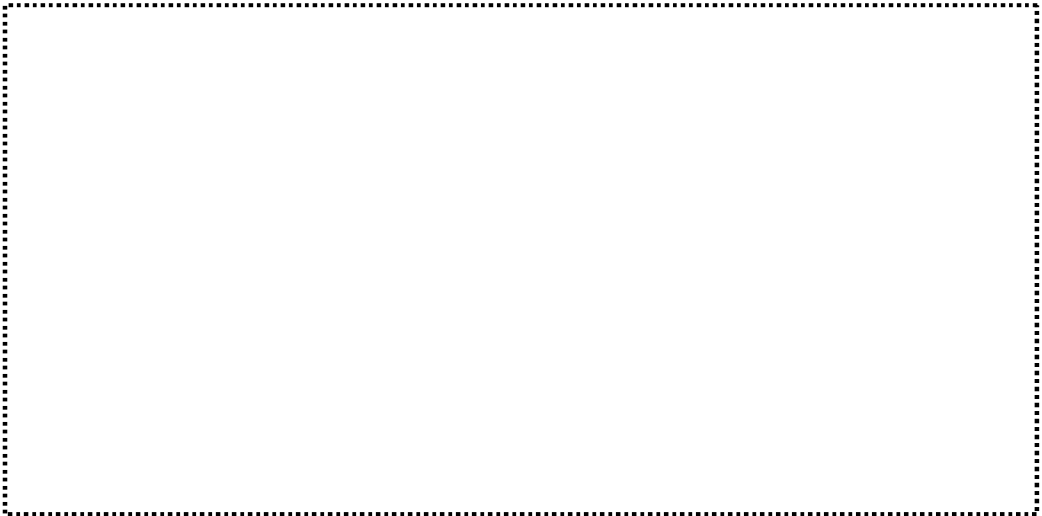
安倍政権が平和主義、民主主義

本庄豊実行委員長(地区労議長)は 安倍政権を、日本を戦争する国に変質させようとしていること批判し、山本宣治さん、日本を再び戦争をする国にしない決意を込めて、私たちはあなたの墓前に集まりました。私たちはあなたの生き方は私達を励まし続けています。」と誓いました。

最後に、山宣の孫にあたる山本勇次がお礼のあいさつをされました。

“みんなは一人のために、一人はみんなのために”

第50回 宇城久地区労定期大会

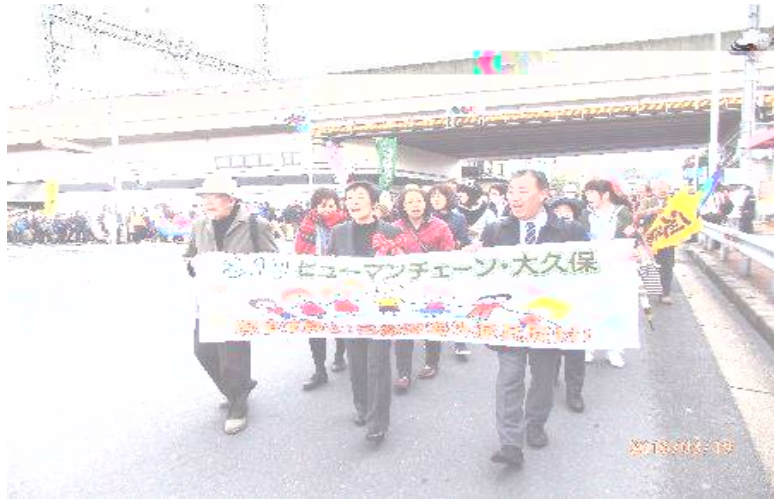


第63回 南山城統一メーデー

5月1日(日) 午前10時開会

会場：府立運動公園(太陽が丘) 野外センター

陸上自衛隊大久保駐屯地 1300人が「海外派兵反対」と包囲



戦争

戦争法は今すぐ廃止!

させない

雨の降る中、近鉄大久保駅前に30分以上前から続々と参加者が集まり始め、普段は静かな駅前がプラカードや団体旗・タペストリーなどを持った参加者で、溢れんばかりの人となりました。また、宣伝カーから、リレートークが行われ、主催「3・19ヒューマンチェーン・大久保実行委員会」各団体や賛同団体が参加しました。

大久保駅前からのデモは、賛同する多くの団体や市民が、横断幕や趣向をこらしたプラカード、のぼりを掲げて次々と出発しました。

地元よびかけ団体や政党・共同センターを先頭に、駅から大久保自衛隊の正門前を通って、自衛隊敷地の南西角にあるスーパードライオンまで行進しました。折り返し、自衛隊駐屯地を取り囲むように手をつなぎました。「一人たりとも殺し殺させない」と呼びかけ、駐屯地に向かって、そして、駐屯地を背に政府に向かって声をあげました。

安倍内閣は、「安保関連法制」を、本日3月29日に施行しました。日本がどこからも攻撃を受けていないとき、自衛隊を海外で殺し殺される武力行使に参加させるといふ「安保法制」は、憲法違反であり、戦争法そのものです。自衛隊に駆けつけ警護をはじめとする他国の国民を撃つ任務を付与するもので、私たちはこの法施行に対し、怒りを込めて抗議するものです。発動を許さず、一刻も早く戦争法を廃止し、安倍政権による集団的自衛権の容認の撤回、立憲主義の回復をめざすことを表明するものです。

戦争に巻き込まれるのは、自衛隊だけではありません。

安倍政権は、いま、この戦争法の下で戦争遂行体制をつくるため、民間船舶の徴用、船員の予備自衛官としての登録などをはじめ、医療から建設、輸送や自治体、報道関連などあらゆる仕事を戦争協力体制に組み込む動きを強めています。1月29日、全国の船員等で組織する「全日本海員組合」は、「政府が当事者の声を全く聞くことなく、民間人である船員を予備自衛官補として活用できる制度を創設することは、『事実上の徴用』につながる」として、「断じて許されるものではない」との緊急声明を発しました。また、2月1日トラック会社の経営者と労働組合でつくる中央運輸労使協議会は「トラック産業の健全な発展をめざす労使が、「戦争に加担する輸送を断固として拒否する」と宣言するなど、戦争協力体制をつくらうとする動きに反対表明が広がっています。

私たちは、仕事を通じて労働者を戦争に協力させようとする安倍政権の危険な動きに、怒りをもって反対します。

2月19日、野党が共同で「戦争法廃止法案」を提出しました。今こそ、国会内外で力を合わせ、戦争する国をつくらうとする「安倍政治」を許さない大運動をいっそうすすめる決意です。

戦争法廃止と立憲主義の堅持を求める全国統一署名を、職場でも地域でもおおいに広げ、国会と政府を国民世論で包囲し、憲法を守り生かす政治を実現することを呼びかけるものです。

2016年3月29日

京都地方労働組合総評議会 議長 梶川 憲